

3 月 26 日 聖日礼拝

前 奏

招詞 エレミヤ書 33 章 1, 2 節

「地を造った主、それを形造って堅く立てた主、その名が主である方が言われる。『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』アーメン

賛 美 聖歌 4 9 4

賛 美 鹿のように (2 回)

主の祈り

交 読 詩篇 2 8 篇 1 ~ 9 節

礼拝祈禱

使徒信条

聖書朗読 ルカの福音書

8 章 22 ~ 25 節

説 教 イエス様との船旅 林眞光修養生

賛 美 聖歌 5 0 8

献 金 聖歌 3 7 6

頌 栄 聖歌 3 7 6

祝 禱

報告

後奏 感謝祈禱

■聖歌 4 9 4 「いざみな来たりて」

①いざ みなきたりて 喜ばしく 声をひとつにし ほめたたえよ

※こひつじイエスに みさかえあれや
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ アーメン

②われらにかわりて 死にたまいし 神のこひつじに 栄えあれや

③イエスこそ すべてのちからと知恵 富と尊きを 受くべきなれ

④神につくられし ものすべては 声をひとつにし ほめたたえぬ

■鹿のように

谷川の流れを慕う 鹿のように 主よ わが魂 あなたを慕う
あなたこそ わが盾 あなたこそ わがちから
あなたこそ わが望み われは 主を仰ぐ

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを ころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇 28 篇 1～9 節

- 1 主よ 私はあなたを呼び求めます。
わが岩よ どうか私に耳を閉ざさないでください。
私に沈黙しないでください。
私が 穴に下る者どもと同じにされないように。
- 2 私の願いの声を聞いてください。
私があなたに助けを叫び求めるとき。
私の手を あなたの聖所の奥に向けて上げるとき。
- 3 どうか 悪者や不法を行う者どもと一緒に
私を引いて行かないでください。
彼らは隣人（となりびと）と平和を語りながら
その心には悪があるのです。
- 4 彼らの行いとその悪にしたがって
彼らに報いてください。
その手のわざにしたがって彼らに報い
その仕打ちに報復してください。
- 5 彼らは 主のなさることも
御手（みて）のわざをも悟らないので
主は彼らを打ち壊し 建て直すことはされません。
- 6 ほむべきかな 主。
主は私の願いの声を聞かれた。
- 7 主は私の力 私の盾。
私の心は主に拠り頼み 私は助けられた。
私の心は喜び躍り
私は歌をもって主に感謝しよう。

8 主は彼らの力。

主は 主に油注がれた者の救いの啓。

9 どうか御民（みたみ）を救ってください。

あなたのゆずりの民を祝福してください。

どうか彼らの羊飼いとなって

いつまでも彼らを携え導いてください。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 ルカの福音書 8章 22～25節

- 22 ある日のことであった。イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われたので、弟子たちは舟を出した。
- 23 舟で渡っている間に、イエスは眠り始められた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、彼らは水をかぶって危険になった。
- 24 そこで弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、私たちは死んでしまいます」と言った。イエスは起き上がり、風と荒波を叱りつけられた。すると静まり、風になった。
- 25 イエスは彼らに対して、「あなたがたの信仰はどこにあるのですか」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「お命じになると、風や水までが従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろうか。」

■聖歌 508 「われはおさなご」

①われはおさなご われ主にすがらん 小さくあれど 信仰いだきて

※たえず 主イエスの 手に よりすがらん 静けき昼も 風吹く夜も

②などか おずべき われ主にすがらん 神のみたまの 導きあれば

③晴れたる 朝も われ主にすがらん 嵐の夜は すがり 祈りせん

④息を 引くとき われ主にすがらん よし あめつちは 崩れ去るとも

■頌栄 聖歌 376 「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず

御栄えあれ 御栄えあれ アーメン